

6月 開花マップ

| 植物名 | 科名 | 属名 | 別名 | 自生・植栽場所 | 平均開花 確認日 | 解説 | 備考 |
|----------|---------|---------|---------|---------------|-------------|---|----|
| アジサイ | アジサイ | アジサイ | | センター池 | 6/3 | アジサイはガクアジサイの花序全体が装飾花に変化したもので、古くから栽培されている。花は6月頃、枝先に散房花序を出し、直径3～6cmの装飾花を球状につける。果実は結実しない。 | |
| イソノキ | クロウメモドキ | クロウメモドキ | | 中央展望台 | 6/2 | 山地のやや湿った所に自生し、高さ2～3m。6～7月、枝の上部の葉腋に集散花序を出し、黄緑色の小さな花をつける。花は直径5mmほど。花弁と萼片はそれぞれ5個。果実は直径約6mmの倒卵状球形で、赤色から紫黒色に熟す。 | |
| イヌツゲ | モチノキ | モチノキ | | 樹木探勝園 | 6/10 | 山地の岩場や林縁などに生育し、高さ5mになる。よく枝分かかれして、枝葉が密生する。花は雌雄別株で6～7月に小さな花をつける。果実は5～6mmの球果で10～11月に黒色に熟す。 | |
| イボタノキ | モクセイ | イボタノキ | | ファミリー広場入口 | 5/28 | 林縁に生育し、高さ2～4mになる。暖地では落葉しないこともある。花は5～6月、枝先に長さ2～4cmの総状花序をだし、白く小さな花をつける。イボタノキの仲間の樹皮にはイボタロウムシがつき、イボタロウ(虫ろう)が取れる。 | |
| ウツギ | アジサイ | ウツギ | ウノハナ | 学習展示館前他各所 | 5/19 | 日当たりのよい山野の林縁に生育し、高さ1～3mになる。花は5～7月、枝先に円錐花序を出し、白色の花を多数下向きにつける。幹の中心が空になっていることから空木(うつぎ)と名付けられた。 | |
| ウメモドキ | モチノキ | モチノキ | | さくら通り | 6/2 | 湿地や湿った落葉広葉樹林内に生育し、高さは2～3mになる。花は雌雄異株で6月頃淡紫色の花が咲く。果実は、9～10月に赤色に熟し、落葉後も落ちずに残る。名前は葉がウメの葉に似ていることによる。 | |
| オオバボダイジュ | アオイ | シナノキ | | 苗畑 | | 葉は互生し、先は尾状に尖り、基部はゆがんだハート型。裏面は星状毛が密生し、脈腋には毛叢がある。花は6～7月に淡黄色の花を10個以上つけ、花柄には総苞葉をつける。 | |
| オオヤエクチナシ | アカネ | クチナシ | | 見本園 | 6/25 | クチナシの八重咲きで、花が大きい。葉は対生か3輪生し、全縁。革質で両面とも無毛。花は6～7月、枝先に芳香のある白く大きな花をつける。 | |
| カキノキ | カキノキ | カキノキ | カキ | ファミリー広場 | 5/24 | 中国原産と言われ、高さ10m程度になる。成木の樹皮は縦に裂けてはがれる。花は雌雄同株で、5～6月に淡黄色の花を付ける。果実は液果で10～11月に黄赤色に熟す。 | |
| カナメモチ | バラ | カナメモチ | アカメモチ | 第3駐車場、園内 | 5/27 | 山地の斜面に多く、乾燥した尾根筋や沿海地にも生育し、高さ5～10mになる。若葉は紅色を帯びる。花は5～6月、直径10cmほどの複散房花序に白い小さな花を多数つける。 | |
| ガマズミ | レンプクソウ | ガマズミ | アラゲガマズミ | 管理事務所横三叉路、他園内 | 4/25 | 花は5～6月に枝先に直径6～10cmの散房花序をだし、白く小さな花を多数つける。果実は6～8mmの広卵形で9～11月に赤く熟す。コバノガマズミの仲間は葉柄が長さ6mm以下と短いのに対し、ガマズミの葉柄は1cm以上ある。 | |
| キササゲ | ノウゼンカズラ | キササゲ | アズサ | 薬草園 | 6/18 | 中国原産で川岸などの光のよくあたる場所に野生化し、高さ5～15mになる。花は6～7月、枝先に長さ10～25cmの円錐花序をだし、黄白色の花を多数つける。果実は利尿剤に使われ、樹皮や根は解熱剤や駆虫剤に利用される。 | |
| キハダ | ミカン | キハダ | ヒロハノキハダ | 薬草園 | 5/21 | 枝先に円錐花序を出し、黄緑色の小さな花を多数つける。樹皮の Cork 層を取り除いた内樹皮はベルベリンを含み、苦味がある。これを黄檗といい薬用や染料に用いる。 | |
| キミノタマミズキ | モチノキ | モチノキ | | 西ゲート外林道向 | | タマミズキの変種で果実が黄色。 | |
| キョウチクトウ | キョウチクトウ | キョウチクトウ | | センター池下 | 6/14 | インド原産で江戸時代中期に渡来したと言われる。花は6～9月に枝先に集散花序をだし、次々に花を開く。花色は、ピンク・赤・白など、八重咲き品種もある。果実は10～14cmの線形で、直立して付き、熟すと縦に裂けて種子を出す。 | |
| キンシバイ | オトギリソウ | オトギリソウ | | 見本園 | 6/18 | 中国南部原産で庭木・公園樹として植栽され、花は切花にされる。高さ1mほど。花は6～7月、枝先に直径3～4cmの黄色の花をつける。キンシバイは雄しべが花弁より短い、ビョウヤナギは雄しべが花弁より長い。 | |

6月 開花マップ

| 植物名 | 科名 | 属名 | 別名 | 自生・植栽場所 | 平均開花 確認日 | 解説 | 備考 |
|---------|---------|---------|----------|--------------------|-------------|---|----|
| クスノキ | クスノキ | ニッケイ | クス | 多目的広場 | 5/21 | 古くから神社などに植えられ、天然記念物に指定された巨樹や老樹が多い。広島市の木。花は5～6月に新葉のわきから円錐花序をだし、小さな花をまばらにつける。果実は10～11月に黒紫色に熟す。樹皮と葉に樟腦の香りがある。 | |
| クチナシ | アカネ | クチナシ | | 見本園 レストハウス下、えん堤 | 6/25 | 林縁に生育し、高さ1～2mになる。枝は、はじめ緑色、のちに灰緑色になる。花は6～7月、枝先に芳香のある白色の花を1個ずつつける。花の先は5～7裂する。八重咲きのものもあり、葉も花ひとまわり小さいものはコクチナシ。 | |
| クマノミズキ | ミズキ | サンシュユ | | 第2苗畑、東山作業道 | 6/12 | 丘陵～山地の林内に生育し、高さ8～12m。樹形はミズキ科特有の枝の張り方で放射状に出て斜上する。花は6～7月、枝先に葉より高く散房花序を出し、小さな黄白色の花を密につける。果実は7～10月に紫黒色に熟す。 | |
| クロガネモチ | モチノキ | モチノキ | | 管理事務所横他各所 | 6/3 | 山野の常緑樹林内に生育し、高さ10～20mになる。花は雌雄別株で6月頃白色または淡紫色の花をつける。果実は球形で11～12月に赤色に熟す。樹皮から鳥もちがとれる。 | |
| ケンポナシ | クロウメモドキ | ケンポナシ | | しゃくなげロード | 6/25 | 葉は互生し、2枚ずつ付く。左右不対称。花は6～7月に緑白色の小さな花をつける。果実は紫褐色に熟す。花序の軸は花のあと膨らんで、果期には食べられる。材は器具等に利用される。 | |
| コアジサイ | アジサイ | アジサイ | シバアジサイ | 県木の森入口 | 5/21 | 山地や丘陵の明るい林内や林縁に生育する。花は6～7月に咲き、枝先に直径5cmほどの散房花序をだす。装飾花はなく、花はすべて両性花。果実は9～10月に熟す。 | |
| コウホネ | スイレン | コウホネ | | 水生植物園 | 5/30 | 浅い池や沼などに生える多年草の水草。長く直立した円柱形の花柄の先に、黄色の花を1個上向きに開く。和名は河骨で、根茎が白骨のように見えたことによる。鎮静、利尿、止血などの薬効あり。 | |
| コクチナシ | アカネ | クチナシ | ヒメクチナシ | 見本園 | 6/30 | クチナシの変種。高さ30～40cm程度で、地面を這うように育つ。葉は倒披針形で細長く、ほぼ無柄。花は小輪で八重咲き。 | |
| コナスビ | サクラソウ | オカトラノオ | | 園内各所 | 5/13 | 日本全土の道端や草地に広く分布。草丈は5～20cmで、茎は地面を這うように広がる。葉は対生、広卵形。葉腋に小さな黄色の花を1個つける。花冠は深く5裂する。果実は球形のさく果。和名は果実がナスに似て小さいことに由来する。 | |
| コムラサキ | シソ | ムラサキシキブ | コシキブ | 苗畑 | 6/13 | 山麓の湿地などに生育し、高さ2m。花は7～8月に葉腋のやや上から集散花序を出し、淡紅紫色の花を10～20個つける。ムラサキシキブとの違いは、葉の鋸歯が上半分にしかないこと、花序の柄が葉腋より上につくことなど。 | |
| ゴンズイ | ミツバウツギ | ゴンズイ | ゴゼノキ | 薬草園横法面 | 5/30 | 各地の谷川沿いの林内に自生する。5～6月、枝先に円錐花序を出し、淡黄緑白色の花を多数開く。秋、果実が裂けると内面が鮮紅色で美しい。樹皮に白い筋があり、魚のゴンズイの模様に似る。 | |
| サカキ | サカキ | サカキ | マサカキ | レストハウス進入路下 | 6/29 | 山地に生育し、神社などに植栽される。6～7月に白色の花が1～3個束生し、後に黄色味を帯びる。果実は11～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は常緑なのでサカエキ(栄木)、神の静まる地のサカヒ(区域)の木など諸説ある。 | |
| ザクロ | ミソハギ | ザクロ | | 見本園 | 6/19 | 西アジア原産で平安時代に渡来したとされる。6月に朱赤色の花をつける。果実は直径5cmほどの球形で、熟すと不規則に裂開する。果実は生食でき、樹皮は駆除剤などに利用される。 | |
| サツキツツジ | ツツジ | ツツジ | サツキツツジ | 管理事務所前他各所 | 5/14 | ほとんどが栽培で自生はまれ。葉は互生し、枝先に数個集まってつく。春葉と夏葉があり、越冬するのは夏葉。花は5～7月、枝先に朱赤色の漏斗形の花をつけ、5中裂する。 | |
| サラサウツギ | アジサイ | ウツギ | | 苗畑 | 5/19 | ウツギの重弁の品種。花弁は外側が紅紫色を帯び、内面は白色。古くから栽培されている。 | |
| サンゴジュ | レンプクソウ | ガマズミ | | 見本園、第2苗畑 | 6/19 | 海沿いの谷などに生育し高さ20mになる。花は6月、枝先に5～16cmの円錐花序をだし、白色の花を多数つける。果実は8～10月に赤くなり、完熟すると黒くなる。名前の由来は、赤い果実がたくさん付き珊瑚に見立てたことによる。 | |
| シモツケ | バラ | シモツケ | キシモツケ | 苗畑 | 6/18 | 岩礫地など日当たりのよいところに生育する。花は5～8月、枝先に半球形の複散房花序をだし、小さな花を多数つける。花弁は広卵形～円形で淡紅色、紅色、濃紅色、まれに白色と変異が多い。果実は9～10月に熟し裂開する。 | |
| シャリンバイ | バラ | シャリンバイ | タチシャリンバイ | 管理事務所前法面 | 5/14 | 海岸や海岸に近い山地に生育し、高さ1～4mになる。小枝は密生して輪生状にでる。花は5月頃、枝先に円錐花序を出し、直径1～1.5cmの白色の花を多数つける。果実は10～11月に黒紫色に熟す。移植はやや困難。 | |
| シロウメモドキ | モチノキ | モチノキ | | さくら通り | 6/12 | ウメモドキの変種とされ、花も核果も白色のもの。庭木に植えられたり、盆栽などに利用される。 | |

6月 開花マップ

| 植物名 | 科名 | 属名 | 別名 | 自生・植栽場所 | 平均開花 確認日 | 解説 | 備考 |
|------------|---------|---------|--------------------|-----------|-------------|--|----|
| スイカズラ | スイカズラ | スイカズラ | ニンドウ・キンギンカ | ファミリー広場入口 | 5/26 | 山野に生える半常緑つる性木本。花は5～6月、枝先の葉腋に甘い芳香のある花を2個ずつつけ、白色から黄色に変わる。若い葉はそのまま食べたり、乾燥させて忍冬(にんどう)茶にする。和名は花の蜜を吸うと甘いことによる。 | |
| センダン | センダン | センダン | オウチ | 車庫前 | 5/23 | 海岸近くの日当たりの良いところに生育する。花は5～6月に本年枝の基部の葉腋から10～15cmの集散花序だし、淡紫色の花を多数付ける。果実は10～12月に黄褐色に熟し、葉が落ちたあとも長く枝先に残っていることが多い。 | |
| ソヨゴ | モチノキ | モチノキ | フクラシバ | さくら通り他各所 | 5/30 | 乾いた林内や林縁に生育し、高さ3～7mになる。花は雌雄別株で6～7月に小さな白色の花をつける。果実は直径約8mmの球形で10～11月に赤色に熟す。タンニンを含み褐色の染料として用いられる。 | |
| タイサンボク | モクレン | モクレン | ハクレンボク | 見本園 | 5/27 | 北アメリカ原産で高さ20mになる。花は6月頃に枝先に直径15～25cmの芳香のある白い花を付ける。果実は10～11月に熟し、長さ8～12cmの楕円形で袋果が集まった集合果。 | |
| タチバナモドキ | バラ | トキワサンザシ | ホソバトキワサンザシ | センター池西岸 | 6/15 | 花期は5～6月で果実は橙黄色に熟す。日本ではタチバナモドキ・ヒマラヤトキワサンザシ・トキワサンザシなどが植栽されていて、これらを総称してピラカンサと呼ぶことが多い。果実の形や色がタチバナに似ているのでこの名が付けられた。 | |
| タマミズキ | モチノキ | モチノキ | | 車庫東斜面 | | 葉柄が1.5～2cmと長いのが特徴。雌雄別株で6月頃に緑白色の花をつけ、果実は10～11月に赤く熟す。和名は赤い果実が美しく、ミズキに似ていることによる。 | |
| チュウゴクボダイジュ | アオイ | シナノキ | | 芝生広場 | 5/27 | 八千代湖(土師ダム)にあるチュウゴクボダイジュは中国地方で昭和47年に発見された新種で、県の天然記念物に指定。6月頃、集散花序をだし、淡黄色の花を咲かせる。 | |
| ツツラフジ | ツツラフジ | ツツラフジ | オオツツラフジ ツタノハカズラ | レストハウス谷沿い | 7/7 | 葉は互生、広卵形や角形、浅く5～7裂するなど変化に富む。花は雌雄異株、枝先や葉腋から淡い緑色の小さな花をつける。果実は球形で青黒く熟す。有毒。和名はつるがフジに似ていることによる。 | |
| トウネズミモチ | モクセイ | イボタノキ | | 見本園 | 7/4 | ネズミモチより大木となり葉も花序も大きい。ネズミモチの葉は光にかざしても葉脈は見えないが、本種では明瞭。果実はほぼ球形で径0.8～1cm、紫黒色に熟す。果実をつぶしても指は染まらない。中国原産で明治初期に渡来した。 | |
| トキワサンザシ | バラ | トキワサンザシ | | 第2苗畑入口 | 5/22 | 葉は互生、幅が広く両面とも無毛。花は5～6月、枝先に散房花序をだし、白い花を多数咲かせる。果実は球形で、9～10月に鮮やかな紅色に熟す。 | |
| トベラ | トベラ | トベラ | トビラノキ | 見本園 | 5/28 | 海岸に生育し、高さ2～3mで大きいものは8mぐらいになる。雌雄異株。花は4～6月、本年枝の先に集散花序を出し、白い花を多数付ける。花は香りがよい。枝や葉、根に臭気がある。緑化センターでは鹿の被害が多い。 | |
| ナツツバキ | ツバキ | ナツツバキ | シヤラノキ | 管理事務所前他各所 | 6/10 | 樹皮はなめらかで10年ぐらいで古い樹皮が薄片状にはげ落ち、灰白色や赤褐色の大きな斑紋になる。花は6～7月本年枝の葉腋に直径5～6cmの白い花をつける。花弁は5個、ふちは波打ち、細かい鋸歯がまばらにある。 | |
| ナナミノキ | モチノキ | モチノキ | ナナメノキ | 苗畑東側法面 | 6/12 | 花は雌雄異株、6月頃に開花、当年枝の葉腋に淡紫色の散形花序をつける。果実は直径6mmのほぼ球形で、10月頃に赤く熟す。和名はナガミノキ(長実の木)やナノミ(名の実)がなまるとされる。 | |
| ナンテン | メギ | ナンテン | | センター池奥 | 6/26 | 庭木として植えられ、高さ3mほどになる。花は5～6月、枝先に大形の円錐花序を出し、直径6～7mmの白い花を多数つける。果実は直径6～7mmの球形で、10～11月に赤く熟す。 | |
| ニワゼキショウ | アヤメ | ニワゼキショウ | | 園内各所 | 5/5 | 北アメリカ原産、明治中期に渡来し各地に広く帰化している。茎には扁平で狭い翼がある。5～6月、茎の先に細い花柄を出し、小さな紫色の花を次々に開く。花は1日でしぼむ。和名は葉がセキショウに似ていることによる。 | |
| ネコノチチ | クロウメモドキ | ネコノチチ | | 薬草園下遊歩道沿い | 6/24 | 花は5～6月、葉腋に直径約3.5mmの黄緑色の花が4～8個つく。果実は長さ8～10mmの長楕円形。黄色から黒色に熟す。和名は果実をネコの乳首に見立ててつけられた。 | |
| ネジキ | ツツジ | ネジキ | カシオシミ | 薬草園奥 | 5/22 | 日本固有種で山地の乾燥した尾根や斜面に生育し、高さ2～7mになる。生長すると、幹がねじれるのが特徴。花は5～7月に前年枝での葉腋から長さ4～6cmの総状花序を出し、白い花を下向きに多数つける。 | |
| ネズミモチ | モクセイ | イボタノキ | タマツバキ | 見本園 | 6/10 | 花は6月に新枝の先に円錐花序をだし、白色の小さな花を多数つける。果実は直径5～7mmの楕円形で10～12月に黒紫色に熟す。名前の由来は、実がネズミの糞のようで、葉がモチノキに似ていることによる。 | |
| バイカツツジ | ツツジ | ツツジ | | 樹木探勝園他各所 | 5/19 | 山地に生育し高さ1～2m。花は両性、6～7月に白色に赤い斑点のある花を1～数個つける。果実は8～10月に熟す。名前は白く小さな花をウメに見立てたもの。 | |

6月 開花マップ

| 植物名 | 科名 | 属名 | 別名 | 自生・植栽場所 | 平均開花 確認日 | 解説 | 備考 |
|----------|--------|---------|-------|-------------|-------------|---|----|
| ハコネウツギ | スイカズラ | タニウツギ | | センター池のり面 | 5/17 | 沿海地の海岸林に生育し、高さ5mになる落葉低木。花は5～6月に枝先や葉腋に2～3個ずつ付ける。最初は白色でしだいに紅色に変化する。和名は箱根に生育するウツギからだと思われるが、自生している数は少ない。 | |
| ヒメシャラ | ツバキ | ナツツバキ | | 第2苗畑、第2駐車場 | 6/7 | 山地に生育し、高さ15m。樹皮は淡赤褐色でなめらか。花は5月頃に1.5～2cmの白い花を付ける。花弁は5個。果実は9～10月に熟し5裂する。 | |
| ビョウヤナギ | オトギリソウ | オトギリソウ | | ミアスレコース入口他 | 6/14 | 中国原産で古くから植栽され、高さ0.5～1.5m。花は6～7月に枝先に直径4～6cmの大きな黄色の花をつける。雄しべは多数あり、約30個ずつ5つの束になっている。雄しべが花弁より長く、キンシバイは雄しべが花弁より短い。 | |
| ベニカナメモチ | バラ | カナメモチ | | 林間広場 | 5/27 | カナメモチの実生変異種で、若葉が特に赤い本種を”ベニカナメモチ”と呼ぶ。 | |
| マタタビ | マタタビ | マタタビ | | 林内 | 6/1 | 花は雌雄別株で6～7月に芳香のある白い花をつける。果実の塩漬けを酒の肴にしたり、果実酒に利用。虫えいの果実は薬用に利用。ネコ科の動物の好む植物として有名。 | |
| マツバウンラン | オオバコ | マツバウンラン | | 園内各所 | 5/1 | 北アメリカ原産の帰化植物、草地や芝生などに生える。草丈10～60cm。葉は松葉のように細長い。花は紫色の唇形の花を穂状に咲かせる。果実はさく果。 | |
| マルバチシャノキ | ムラサキ | チシャノキ | | 苗畑 | 6/10 | 海岸に近い山地の林縁などに生育し、高さ7～10m。花は6月頃、枝先に散房花序を出し小さな花を多数つける。花冠は5裂し、裂片はそりかえる。雄しべは5個、花柱は緑色。果実は直径2cmで、7～11月に黄色に熟し、生食できる。 | |
| ムクロジ | ムクロジ | ムクロジ | | センター池西岸 | 6/25 | 山地に生え、樹高15～20m。葉は偶数羽状複葉で、小葉は4～6対。花は雌雄同株で6月に黄緑色の小さな花を多数つける。果実は10～11月に熟し、中に黒い種子をつける。これを羽根つきの球に利用する。 | |
| ムラサキシキブ | シソ | ムラサキシキブ | ミムラサキ | レストハウス裏他 | 6/10 | 山野の林内や林縁に生育し、高さ3m。花は6～8月に葉腋から集散花序をだし、淡紅紫色の花をつける。果実は直径3mmほどの球形で、紫色に熟す。果実はコムラサキに比べるとややまばら。 | |
| ヤブムラサキ | シソ | ムラサキシキブ | | 第2苗畑、東山作業路他 | 6/6 | 林縁や林内に生育し、高さ2～3m。株立ちになり、枝は斜上する。花は6～7月に集散花序を出し紅紫色の花をつける。果実は直径3～4mmの球形で紫色に熟す。ムラサキシキブに似るが、本種には枝や葉に毛があることが特徴。 | |
| ヤマイバラ | バラ | バラ | | 西山作業路 | 5/28 | 5～6月、枝先に白い花が10～20個集まって咲く。花は直径4～5cmと大きい。葉は互生、長さ11～15cmの奇数羽状複葉。ノイバラの仲間では最も大きい。托葉は幅が狭く、ほぼ全面面が葉柄に合着する。 | |
| ヤマツツジ | ツツジ | ツツジ | | 林内 | 5/22 | 山地に生え、高さ1～4m。葉は互生し、楕円状～卵状楕円形、夏秋葉は春葉より小さく、越冬する。花は両性、4～6月に開花。朱色の花を1～3個つける。花冠は漏斗状、縁は5中裂する。果実は長卵形のさく果、8～10月に熟す。 | |
| ヤマボウシ | ミズキ | サンシュユ | ヤマグワ | レストハウス、見本園 | 5/13 | 山地の林内や草原に生育し、高さ5～15mになる。花は5～7月に開花する。花びらのように見えるのは総苞片で、総苞片の中心に淡黄緑色の小さな花が20～30個密集してつく。果実は、9～10月に赤く熟す。 | |